

サステナブルを、「もっと」

より加速していくリサイクルをカタチにしていく重要性

—— BIOTECHWORKS-H2への期待

ZERO-TEXを開発した頃からのつながりがあり、BIOTECHWORKS-H2のサステナブルの取り組みやリサイクルのシステム、ZERO-TEXのサステナブル生地は、従来とは異なる取り組み方で興味深いです。様々なサステナブルの提案があり、カタチがあることが重要だと思っています。・関西万博や2027横浜国際園芸博覧会、スポーツではFIBAバスケットワールドカップなど、日本で開催されるケースが増えています。より加速して、リサイクルや廃棄物の問題が増えていくと予想されます。実現することより、そのためにどう動いているかが非常に重要。

将来的にBIOTECHWORKS-H2の実績をあげていけば良いのかなと思います。

—— BIOTECHWORKS-H2に対する反応

見えないことに対してどうなのかを気にするお客さんは多いです。例えばリサイクルされたユニフォームをエコバックとしてカタチを求めている人も中にはいて、BIOTECHWORKS-H2はCO2の削減量を可視化したエビデンスによって示すことが重要です。

—— ユニフォーム業界のサステナブルへの関心度の向上

ユニフォームは一般的なファッションよりも企業が取り上げるものが多いので、世の中がサステナブルやエコを唄う前から再生ポリエステルが含有された生地などを使用されています。

もともとの意識や取り組みはあったが、昨今の

SDGsやサステナブルの盛り上がりから「もっと」という動きが見られます。新たに水素に着目したおもしろい技術だと思います。



使い終わったユニフォームの多くは廃棄されています。生地をリサイクルすることは可能だが、リサイクルするための分別がハードルを上げているのが現状です。その画期的な技術はいまだ確立されてないわけですね。廃棄衣料を再生可能エネルギーとして元に戻す仕組みは従来にはない、新しい提案であると思います。

—— 課題と提案

メリットが数値と金額で、どのくらい戻って来るのかははっきりとわかれば賛同する人も増えてくるのではないかと思います。皆さんに見える形まで持っていくのが大切です。それから私たちとしては会員同士の交流を通して繋がりを深め、増やしていくことが重要だと考えています。サステナブルな活動を高め、会員企業にとって有益な取り組みにつながれば良いと考えています。

多くの経験と知識を持ってユニフォーム業界の発展に力を注ぐ。

創立 50 年以上世界で唯一の「ユニフォーム」を研究する団体内閣府認定の公益財団法人

公益財団法人
日本ユニフォーム
センター

理事長
藪谷 典弘さん

